

講演 ダイジェスト

今回の「父母との集い」では、櫻井誠キャリア部長に、「就職説明会」として現在の就活事情と中部大学のキャリアサポート体制について講演をいただきました。また、全体会では、「学生生活について」と題して、佐伯守彦教務部長と梅寄周毅学生部長にご説明をいただきました。その内容をダイジェストでまとめました。

よりよい就活に向けた キャリア支援

キャリア部長
工学部 応用化学科 教授

櫻井 誠



就職活動のスケジュールは、国の要請により3年次の3月1日に採用活動開始、4年次の6月1日に採用試験開始、10月1日に正式内定となっています。しかし、実際は超前倒し傾向で、3年次の夏休みにインターンシップへ参加した後の秋学期開始とともに就職活動が始まります。中部大学では、公式アプリで随時案内し、2年次の秋学期から就職ガイダンスを行っていますので、その流れに乗れば自然とスタートラインに立つことができます。就職は大学受験とは異なり、何万社以上の選択肢から選ぶことになるため迷う学生がいます。その対策としてはまず1社内定を得ること。1社受かったという事実が自信につながります。一方、生命健康科学部などの資格系学科は資格取得が重要であることをご理解ください。もう一つの留意点としては、エントリーシートや履歴書などの書類選考が通過しない場合です。その場合、企業

側の視点が欠けていることが多いため、第三者に見てもらうように勧めてください。こうした就職活動を進める上で困った場合の相談先として3つ用意しています。まずは一番身近な存在としてゼミの先生、次に、各学科に配置しているキャリア開発担当教員、そしてキャリア支援課のスタッフです。就職については内面的な側面を話すことになるため、そうした内容を先生に知られたくない場合は、キャリア支援課へとお声がけください。

以下に皆様へのお伝えしたいことをまとめます。就活では、学業以外に何かアピール点を持つことが大切です。学生時代に力を入れてきたこと、いわゆる「ガクチカ」です。アルバイトについて書く学生が多いですが、できれば資格取得や部活動など、継続して取り組んでいることを作っておいてほしいと思います。また、就職活動と言いますが、就社活動になっている学生が多いです。つまり、有名

企業に入ればどこでもいいという考え方で。この場合、自分の目指していた職種と異なる部署に配属されて辞めてしまうことがあります。職種を決めてから会社を選ぶ方が離職を防ぐ上では有効です。一方で、近年は離職しても以前のような負のスパイラルになることはありません。ぜひ積極的にチャレンジし、ダメなら次へという気持ちで臨んでください。最後になりますが、キャリア支援課では、ご両親にも相談するよう学生へ伝えていますので、お忙しいときでも、耳を傾けていただきたいと思います。干渉し過ぎず関心を持ってご対応いただけると、よりよい就職活動に向けて進んでいけると 생각합니다。



ご自宅に郵送された 成績表は必ずご確認を

教務部長
工学部 機械工学科 教授

佐伯 守彦



教務部からは、単位制と進級・卒業要件についてお話しします。単位制は、自分が申告した授業を履修して、合格するとその科目の単位が修得できる制度です。1科目につき1～2単位が認定され、1単位≒45時間の学修と大学設置基準に定められています。その内訳は、授業1時間に対して2時間の予習・復習を行うこと、つまり3時間×半期(15週)で45時間となります。授業の成績評価は、期末試験や授業での小テスト、レポートや作品などの成果物など先生ごとに異なり、100点満点で60点以上であれば合格(S・A・B・C)、60点に満たなければ不合格(E・I)となります。中部大学では、成績をご実家に郵送する方法を取り、春学期の成績は9月上旬に、秋学期分は4月上旬に送っています。その際、成績が芳しくないときに入る注意コメント

が記載されていた場合には、お子様とお話したかどうか、不明点がありましたら教務支援課までお問い合わせください。進級要件としては、3年次を終了した時点で100単位以上を修得していないと4年次に進級できません。この100単位を単純に3年間で割ると33.3です。単位を単純に3年間で割ると33.3です。少なくとも年間35単位の修得が求められます。また、2年次、3年次への進級に必要な単位数を定めていたり、特定の科目の単位修得を条件としている学科もあります。卒業要件においても学科別に124～130単位で設定していますが、必修科目は1単位でも落とすと、卒業が認められませんのでご注意ください。本学では、学生が能動的に学ぶ姿勢を身につけ、社会で活躍することを願っています。今後ともご支援・ご協力をお願いいたします。

学生生活で困ったら 遠慮なく早めの相談を

学生部長
人間力創成教育院
健康とスポーツ教育プログラム教授

梅寄 周毅



本学の在学生数は約1万1千人。毎学期、その約15%(7人に1人)の割合で学業不振の学生がいます。対象学生には、次の履修申告前に指導教授から連絡をして個別指導を行っています。学業不振の理由を調査すると、「授業に出ない」「アルバイトで忙しい」「勉強不足」などが多くを占めますが、もし授業についていけない場合は、勉強方法を教える学習支援室の活用をお勧めください。また、アルバイトについては、全学生の90%以上がアルバイトをしていて、1週間のアルバイト時間は7割の学生が8時間以上働いているというデータがあります。社会勉強の上でも必要なことですが、学生の本分は学業ですのでバランスは大切です。

また、学生支援と活動について述べますと、専門の学力だけでなく、幅広い視野からの創造力と人間力の育成を大切にして、さまざまな支援体制の整備と課外活動を用意しています。就職活動の面接の際には、必ず「学生時代に力を注いだこと」を聞かれます。そのときに、勉強はもちろんのこと、課外活動を通して磨いた人間力は有利に働きます。ぜひ、課外活動への積極的な参加をお勧めください。さらに情報の取得においては、大学公式アプリがお勧めです。奨学金の情報や学内で行われるイベント情報など、エックスやインスタグラムでも幅広く大学の情報を発信していますので活用ください。最後になりますが、学生生活で困ったことがあれば指導教授の先生、ゼミの先生、各支援施設のスタッフに相談してください。早めの相談が早い解決にもつながります。決して抱え込むことがないように見守りをお願いいたします。